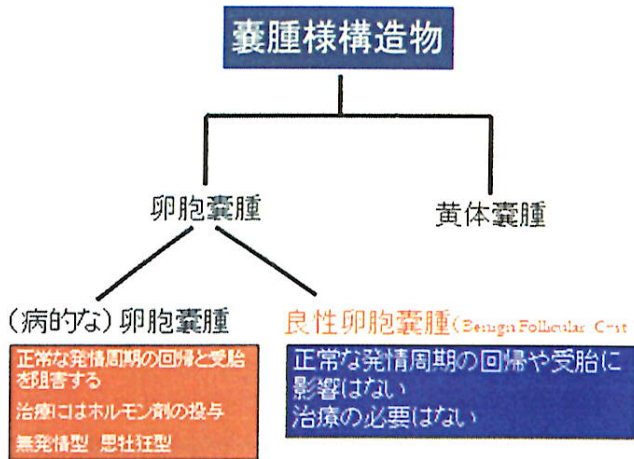


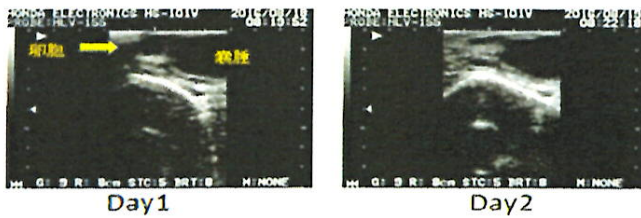
# 良性卵胞嚢腫

発情時に嚢腫（のうしゅ）があっても発情卵胞があれば積極的に授精を行うことは当たり前になってきています。



## 良性卵胞嚢腫

嚢腫と共存した卵胞が排卵



その理由は、病的な卵胞嚢腫は殆どが無発情型である為、発情兆候が確認できたなら、その嚢腫は良性卵胞嚢腫である可能性が高く、何処かに正常な発情卵胞があるはずなので授精を行います。良性卵胞嚢腫は受胎性にも問題はないです。

42日目 左 黄体 右 嚢腫様構造

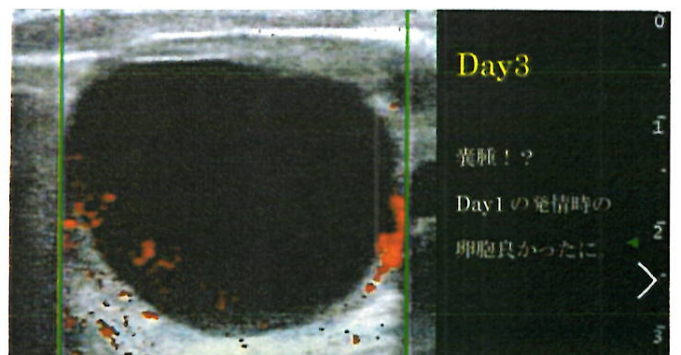
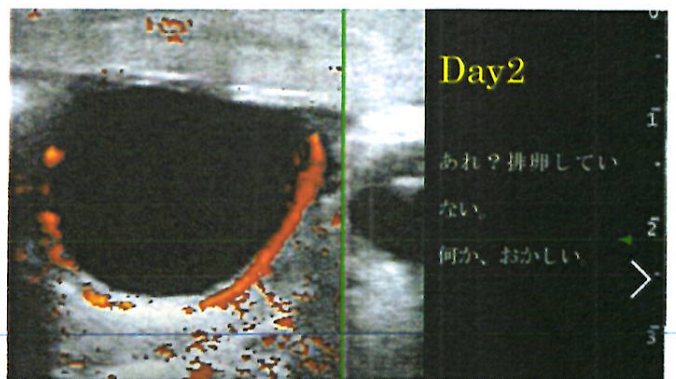
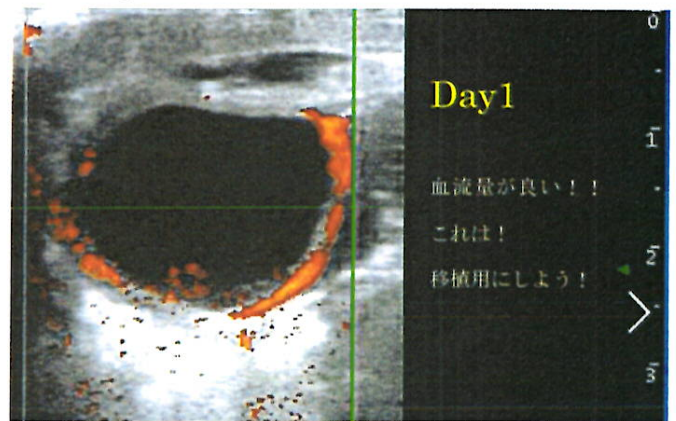


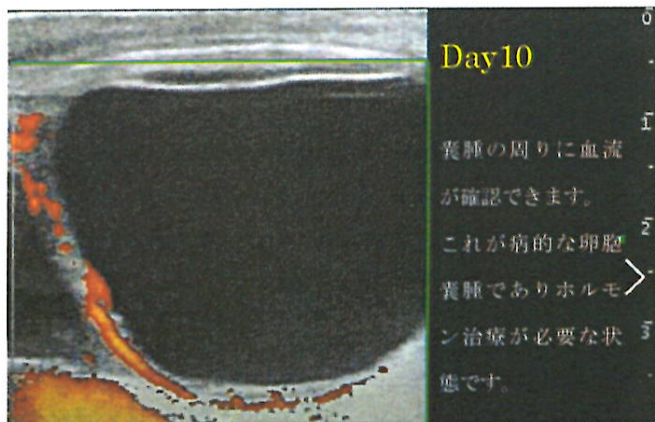
## 病的な卵胞嚢腫

確認できる殆どは、発情時に嚢腫構造物があり、何処かに発情卵胞がある状態ですが、発情時に嚢腫しか確認する事ができない場合があります。その時は一週間後に黄体が確認できなく嚢腫しかない場合は病的な卵胞嚢腫の可能性が高いと思われます。

## 発情卵胞だと感わされる病的な卵胞嚢腫

発情時、ドップラーで見た卵胞血流量が良いと排卵率も受胎率も高い傾向があるのではないかと前々回に話させて頂きました。しかし卵胞血流量が良いのに、そのまま排卵しないで嚢腫になってしまう事例がありました。





この先の状態はこれから観察していこうと思います。

発情段階での良い卵胞と嚢腫になる卵胞の違いを見分ける事は難しいです。

この牛の血液を採集することが出来たので、大学の研究所に検査の協力をお願いしているところです。

検査結果から、ホルモンサイドから良い卵胞と嚢腫になる卵胞では何が違うのか分かれば今後に生かせるのではないかと思います。

検査の結果が分かり次第報告させていただきます。

太田